全建連新聞

社団法人　全国中小建築工事業団体連合会
東京都港区赤坂2丁目2番19号　〒107
アドレスビル内
電話 03(586) 3381
購読料送料共
半年200円 1ヵ年400円

規模/技術/品質を誇る
建設省防火建築材料認定品
三菱石膏ボード
発売元　三菱商事株式会社
製造元　日東石膏株式会社
日東石膏ボード株式会社
日本石膏ボード株式会社

第5回総会盛大に開催される

厳しい環境の中で 業界の英知を集め前進

――全国から300名が参加

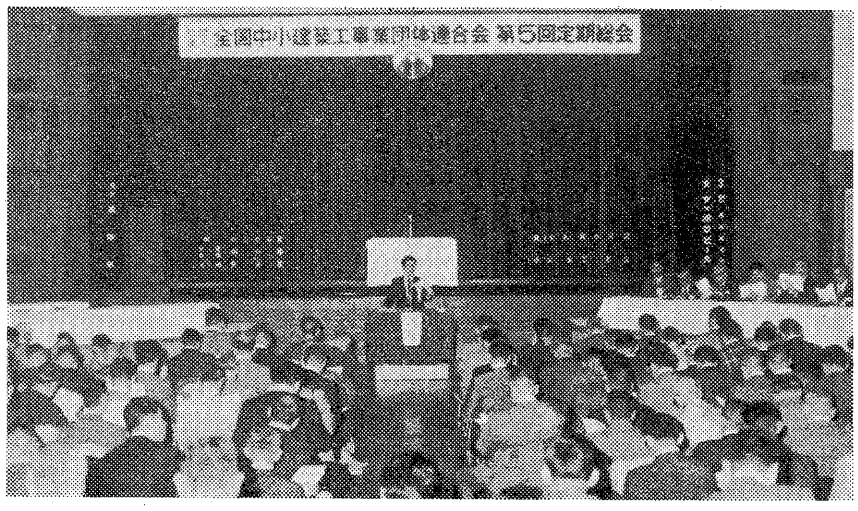
第五回定期総会は五月二十五日新緑もゆる秋田県鹿角市湯瀬温泉「湯瀬ホテル」で開催され、全国から約三〇〇名の代表が出席して五十二年度の事業報告、決算報告を承認するとともに、五十三年度の事業計画、予算を決定しました。

総会は定刻一時に中村（民）副会長の開会の辞で始まり、今井会長の挨拶があったあと、功績者六十三名の表彰と、叙勲、褒章、大臣表彰を受けられた方々の顕彰を行いました。

ついで桜内建設大臣、藤井労働大臣、藏原林野庁長官（いずれも代理）ら来賓から祝辞を受けたのち議長団に菅田良光常任理事（千葉）、成田寛八郎評議員（秋田）を選んで議事に入りました。

まず中川常務理事から、四年つづきの低迷に悩まされている工事受注の現況や、その中での仕事の確保対策、また「良質・安価な住宅」の供給が最大の課題になっているとき、こんご年産性の低い木造在来工法住宅は、このままの状態では対応しきれない心配があること、そのため在来工法住宅の合理化対策に取り組んできた経過等々、五十二年度の事業報告が行われました。

これに対し、住宅木材技術センター設置の目的や事業内容、雇用保険問題などを中心に活発な質疑応答があったあと、中村副会長の決算報告、多田監事の監査報告と



総会風景（前面）

五十二年度における経済情勢の見通しは、現在のところ極めて微妙な段階にあるが、政府は本年度の経済運営の重点を景気回復におき、実質七%前後の経済成長の達成と最善の努力をすることとしている。

こうしたことから建設省は、本年度住宅需要を一六〇万戸程度と予測している。これに公庫住宅の計画戸数の大幅増や住宅ローン減税等により、民間住宅の伸びが高く見込まれるからである。

一方、住宅購入における借入依存度の高まりと、年齢構成の変化にともなう世代循環、土地供給の先細り的傾向、大都市への人口集中鈍化の動き等から、住宅建設は停滞し、せいぜい一五〇万戸程度にとどまるだろうという見方もある。

いずれにしても、ここで長期かつ構造的な不況が、一挙に回復することは考えられず、中小零細企業の経営環境は全般的に厳しいものと思われる。

したがって、今なによりも大事なことは、減速経済に対応できる今後の経営の在り方について業界の英知を集めて詮索し、未来にむかって大きく前進しなければならない。

そのために本年度は、全会員が広い視野と強い連帯性をもって、次の事業活動を着実に推進していくこととした。

1、需要拡大対策
①優良建築工事業者の育成②住宅性能保障保険制度の導入とアフター・サービス体制の確立③建築相談コーナー設置の促進④住宅金融制度の改善強化⑤消費者に対するPR活動

2、経営の近代化・合理化対策
①企業の体質改善、協業化、受注方法等改善指導②経営セミナーの開催③建築部資材の流通対策④協同組合連絡協議会の機能化⑤建話

3、在来工法の合理化対策
①在来工法合理化グループ設置の指導・推進②日本住宅・木材技術センターの効果的事業運営の推進③部品・部材標準化の策定

4、住宅の適正施工に関する法律の制定

5、工事費適正単価の確保
①工事積算の合理化指導②標準的工事単価表の作成③労務単価適正化の推進

6、組織の拡充強化対策
①会員団体の充実強化②未組織地域の組織化③青年部の設置④議員連盟の結成⑤賛助会員制度の充実

7、技術・技能の向上対策

8、建設労働福祉対策
①全建連共済制度の普及促進②建設国保への加入促進③雇用条件、労働環境の改善④雇用管理責任者研修の推進⑤労働保険加入の促進⑥建退共の活用⑦年金制度導入準備

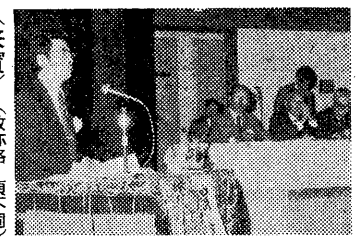
9、労働災害の防止対策
①安全教育の普及徹底②安全施工の推進③作業主任者の研修

10、調査研究活動
①建築工事に関する情報の収集②業界の動向、将来の展望についての調査研究③需要者意識についての実態把握

11、広報活動
①全建連新聞、全建連情報の発行と紙面の拡充②マスコミ利用のPR

12、表彰
①功労者の表彰②叙勲、褒章、表彰等の推せん

53年度事業計画 在来工法の合理化等12項目

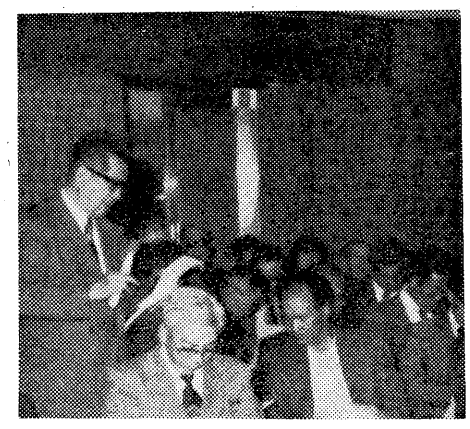


〈来賓〉（敬称略・順不同）
建設大臣（代理）労働大臣（代理）、林野庁長官（代理）、建設省住宅生産課長・松谷蒼一郎、鹿角市助役・高石喜助、秋田県産業労働部技監・竹内敏雄、日本住宅・木材技術センター常務理事・山口和義、住宅産業研修財団理事長・松田妙子、C・O・F・Iビルダーコンサルタント・梶原松次、建設国保理事長・永井睦郎、鹿角市職業訓練協会会長・青山倭、全木連・高橋慶一、千代田生命課長・森本邦夫、住宅産業情報サービス編集長・城戸正昭、鹿角市観光商工課、秋田県連相談役・鈴木慶之助同・米沢子之松

〈祝電〉（敬称略・順不同）
自民党幹事長・大平正芳、同組織委員長・竹下登、衆議院議員・石田博英、同・田中伊三次、同・越智通雄、自民党商工局長・松永光、農林大臣・中川一郎、防衛庁長官・金丸信、衆議院議員・渡辺栄一同・奥野誠亮、同・相沢英之、同・中西啓介、同・根本竜太郎、同・佐々木義武、参議院議員・古賀雷四郎、同・遠藤政夫、同・佐々木満

建設業振興基金、中央技能検定協会、日本建築センター、建設業労働災害防止協会、日本建設業団体連合会、全国中小建設業協会、日本鳶工業連合会、全国建設産業協会、日本建築大工技能士会、全国木材組合連合会、日本2×4建築協会、秋田県技能検定協会、大曲仙北職業訓練協会、関東木工機械協同組合、秋田県連相談役・小林与八、日本木材備蓄機構

なお、坂野重信顧問（参議院議員）よりメッセージがよせられました。


活発な質疑応答が行われた

松谷課長が講演

議事に先立ち建設省住宅局の住宅生産課長　松谷蒼一郎氏から「住宅産業の展望と消費者保護について」というテーマで講演がありました。【写真・左】

あわせて、いずれも報告どおり承認されました。

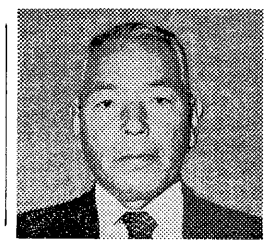
ついで新年度の事業計画案と予算案が、中村副会長、中川常務理事からそれぞれ提案され、原案どおり決定された。

なお事業計画案の審議のなかで年金制度の導入を実現してほしいという強い意見がありました。

さいごに補充役員の選任については山内滋氏（北建連副理事長）が新しく理事に選任されました。

中村（民）副会長勇退

総会の議事終了後、中村民蔵副会長（秋田県・写真）から、「このたび秋田県連の会長を交替したので、全建連の理事を辞任致したく思います。全建連の創立以来理事の大任を今日まで無事果たすことが出来ましたのも皆様のおかげです。これからの全建連の発展と会員各位の健康をこころからお祈り致します。」と辞任の挨拶がありました。



今井会長渡米
日米住宅木材会議に出席

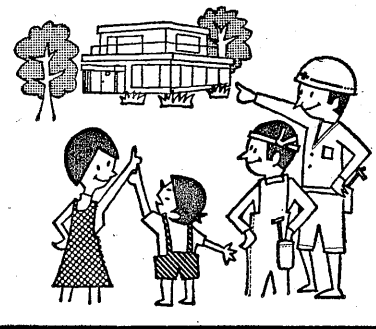
六月二十日にワシントンで日米住宅、木材会議が開かれるのを機会に、わが国から官民合同の住宅視察団を派遣することになりましたが、中小工務店の代表として本会の今井会長がこの視察団に加わって渡米します。

視察団は六月十七日出発しホワイトハウスで米連邦政府との会議に出席するほかワシントン州政府対関係者や去る四月に来日したNAHBとの懇談、住宅価格、住宅用木材の品質使用状況の調査、設備材料メーカーの視察等々をしたうえ七月五日に帰国します。

あれやこれや

▼天王寺で関西本線に乗る。電車はすぐに市街をはずれ、奇々とした田んぼに変わる。かすみの向こうに生駒のつらなりが見え始め、山中を走り、やがて王子で降りる。生駒の街は、木の香りと笑いがこぼれそうな生きたたずまいだ。初夏の輝くような緑とあいまって木造の肌の古さが時を語る▼法隆寺前でバスを降り、松並木の間を通り、南大門に出合う。正面に西院伽藍、左手に東院伽藍。中宮寺。法輪寺、法起寺そして薬師寺、唐招提寺、奈良へとつづく道。鳥は塔にたわむれ遊ぶ。個々の堂舎、仏像、仏具、楽具……、一つとっても実に精巧に造られていて、一分のすきもない▼何度、問いかけても、必ず何かを確実に返してくれる。古さとか目新しさだけに興味があるとしたら、すぐに嫌気がさしてしまうであろう。瓦にしても飛鳥時代の古さと今の新しさまで、文様、形、色、とりどりのものを持っている。見ているだけでも、歴史の流れ、様式の好みの移り変わり、造った人々までが思われてくる。不注意で原型し、記憶できなかったりすることの多い毎日である。もっと緊張を保てたら、どれだけのものをつかみ得るだろう▼「疑問を抱き、問いかけ、答えが返ってくる。」大切な事だと思う。そして与えられるだけではなく、それを与えるような実力を持ちたいものだ。怠け心旺盛な自分にとっては大変なことである。仕事やその他のことをやるとき、変らない熱意を持ちたい▼関西線沿線には一戸建ての住居がだんだん増えて行く。車窓より塔を望める所はほとんどなくなった。大阪のベッドタウン化が目に見える。時の流れだ。」S記

あなたの尊い生命と財産をまもる
法定防火内装建材　パルプセメント板
パルプセメント板協会
〒104 中央区銀座3－9－4　文成ビル
☎ (03)541－3039
543－3093

明るく豊かな生活は
万全の備えから生まれます。

さアー入ろう。
みんなの共済に。

全建連共済